

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政権交代による経済対策と金融政策による円高是正や株価が安定的に推移したことから、輸出企業を中心に企業収益が改善するなど、景気回復の兆しが見られました。一方、新興国での経済成長鈍化、原油高の影響による原材料価格の高騰、消費増税など、依然先行き不透明な状況にあります。

このような状況のもと、当社グループでは、新製品の開発や新規顧客の開拓など販売活動を強化するとともに原価改善、生産性の向上など収益改善に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、関連事業での需要の取り込みと前連結会計年度末より連結の範囲に含めた在外子会社の売上高の増加により、売上高は180億3千8百万円（前年同期比10.4%増）となりました。

損益面につきましては、原材料価格の高止りの影響があったものの増収の効果により営業利益は3億3千7百万円（前年同期比8.3%増）、経常利益は海外関係会社の業績拡大や円高是正による持分法による投資利益の増加により13億6千5百万円（前年同期比46.6%増）、四半期純利益は11億9千3百万円（前年同期比60.6%増）となりました。

セグメント別の業績の状況は次のとおりであります。

#### ① 塗料関連事業

当セグメントの業績につきましては、顧客ニーズに合致した新製品の開発による新規顧客の開拓と省エネ対策など環境対応型塗料を主力とした売上拡大を行うとともに原価改善、生産性の向上に取り組ましました。

品種別売上高につきましては、建築・構築物用塗料のうち、床用塗料は前年同期比9.5%、防水用塗料は7.7%とそれぞれ堅調に増加しましたが、屋根材は前年同期比△6.5%と減少しました。航空機用塗料は、塗り替え需要増もあり前年同期比17.0%増加しました。また、工事関連売上高では消費増税駆け込み需要など集合住宅大規模改修工事の受注拡大により前年同期比62.4%と大きく増加しました。

この結果、当セグメントの売上高は79億8百万円（前年同期比20.4%増）、セグメント利益は3億1千7百万円（前年同期比60.0%増）となりました。

## ② 自動車製品関連事業

当セグメントの業績につきましては、国内自動車生産は昨年9月にエコカー補助金が終了した影響から回復し、売上高は増加しました。一方、利益面につきましては徹底したコスト削減に取り組んだものの円安進行等による原材料の高止まりによる損益悪化など厳しい状況が続きました。

品種別売上高につきましては、制振材は在外子会社の売上加算もあり前年同期比7.4%増加しました。防錆塗料は前年同期比2.5%、吸・遮音材は前年同期比2.2%とそれぞれ増加しました。

また、材料輸出などのその他売上につきましても前年同期比3.7%増加しました。

この結果、当セグメントの売上高は101億2千3百万円（前年同期比3.7%増）、セグメント利益は1千7百万円（前年同期比84.3%減）となりました。

## ③ その他

保険代理業の売上高は6百万円（前年同期比2.2%減）となりました。

（注）各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高消去後の数値を記載しております。

## (2) 財政状態の分析

### ① 資産、負債および純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ35億9千6百万円増加し、423億5千8百万円となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金の増加4億3千5百万円、有形固定資産の増加6億9千7百万円、株式市況の回復等による投資有価証券の増加28億4千4百万円によるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ7億6千9百万円増加し、182億6千4百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金の増加2億9千万円、流動負債その他の増加4億5千万円、長期借入金の減少6億3百万円、固定負債その他の増加4億1千万円によるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ28億2千6百万円増加し、240億9千4百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加10億6千万円、株式市況の回復によるその他有価証券評価差額金の増加9億9千5百万円、為替換算調整勘定の増加7億3千4百万円によるものです。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ4億9千6百万円減少し、33億8百万円となりました。

営業活動による資金は、10億5千4百万円（前年同期比4億2千8百万円の増加）となりました。主な要因は減価償却費6億4千万円、売上債権の増加による減少4億7百万円、利息及び配当金の受取額3億9百万円によるものです。

投資活動による資金は、9億6千3百万円の支出（前年同期比2億5千1百万円の増加）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出9億2千6百万円によるものです。

財務活動による資金は、6億2千8百万円の支出（前年同期比1億8千9百万円の減少）となりました。これは主に短期借入金の純増加額2億7千2百万円、長期借入金の返済による支出7億6千7百万円、配当金の支払1億3千2百万円によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は5億4千5百万円であります。

(5) 従業員数

当第2四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員数の著しい増減はありません。

(6) 生産、受注及び販売の実績

当第2四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績の著しい増減はありません。

(7) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画の著しい変更はありません。